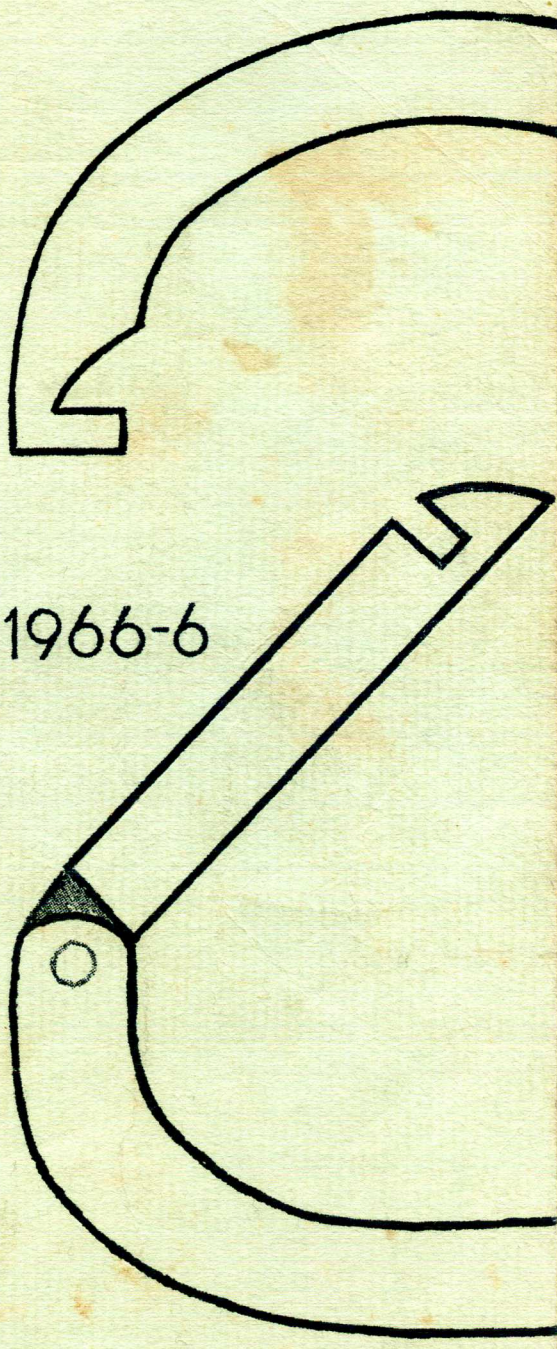


Nagel No.14 1966-6

ACC-J



ハケ岳

横 岳 西 面

裏同心ルンゼの取返

1966年1月 パーティ・谷川 広海・中 野 融

15日 ハケ岳農場より小雪の舞う中を赤岳鉱泉に向う。
鉱泉で朝飯を食べて出発する。雪は止み青空が白い稜線の上
に広がっている。裏同心ルンゼには鉱泉よりジョーゴ沢
に降ると、すぐ出合でルンゼと云うより沢状を呈している。
比較的良く締ったルンゼをラッセルして行くと後続パー
ティーがあり登高者の少ないこのルートなので声をかけると
硫黄岳に登ると云うのでここは裏同心ルンゼで間違いであ
る事を知らせると、無言のまま引き返えして行った。
ルンゼ最初の麓は10mほどで雪に埋もれているが下は氷な
ので雪をかき落しながら登る。氷瀑を2つカッティングで
越し傾斜の強くなったルンゼをラッセルして行くと、この
ルンゼのポイントである週棚が現われた。陽当りで休んで
いると、2人のパーティーが登って来たので取付く事にす
る。中野トップで棚の左寄りから登る、ハングの下を右
からトラバースするとハングの上に凹角がある。その凹
角に可能性を求めてハングの乗り越えにかかる。しかしホ
ールド、スタンス共に無く、おまけにハーケンが打てない

のでふんざりがつかず止むなく下迄飛び降りる。替って谷川さんがアタックする。谷川さんは5m登ってからトラバースせずにハングに直接取付くがハングの上にホールドが無く、岩角にアブミを掛けたりしたが結局駄目でアップガイレンで下る。他のパーティーも別のルートから取り付いたがハングを乗越せずに下っている。今度は通常ルートの北稜側を登る。権木迄簡単に登りバンドを左にトラバースするとハング気味になる。北稜の末端であるカンテは雪が着きどうしようかと迷っていると、下から「無理するな」と云う声が聞こえたとあっさり下ってしまった。

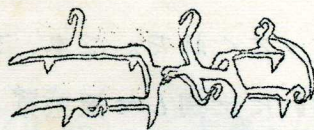
どうも弱気になってしまった様だ。谷川さんと相談の結果大同心の下を大同心稜にトラバースして大同心稜を登る事にする。くやしいけどしかたがない。今度来たら必ず登ってやる。大同心稜に出たから南稜の下を廻り込み、大同心峰と横岳の稜線を結んでいる尾根を目指して傾斜のゆるい岩場を登り始めると、足が強くなり雪がようしゃなく顔をたたたく。こんな状態ではとても登れないので稜線迄登る事をあきらめて大同心稜を下る。完全な敗退である。

森林帯に入ってから大同心ルンゼに降り鉋泉に下る

(記 中野 融)

コースタイム
農場発(4:30)——赤岳鉾(7:45~8:45)——ルン
ゼ出合(9:42)——最初の滝(10:30)——洞(11:40
~14:30)——鉾泉着(16:30)

鉾ルンゼ の登はん



中野 融

16日 鉾泉から行者小屋への道に登り中山乗越の下でト
レースの有る沢に入る。最初に左から入って来るのが小同
心ルンゼである。なおも登ると沢は2つに分れる。左が三
又峰ルンゼ、右が鉾岳ルンゼで2つのルンゼを分けている
のが石尊稜である。鉾岳ルンゼに入る。少し登ると右から
日ノ岳ルンゼが入って来る。急になったルンゼが左に曲る
と大滝が現われた。氷は少なく貧弱な感じである。

麓の右にある雪のテラスで三ツ道具を出しガイルを結ぶ。
中野トップでトラバース気味に左上し3m登ると氷は垂直
になる。最初のアイスハーケンを出来るだけ高い所に打ち
込む、しかしハーケンが喰い込むにしたがい亀裂が入り始
め、なおもアイスバイルを振うとホールドにしていた氷が
崩れ、あっと言う間に10mほど落ちてしまった、幸い怪我
は無い、テラスで一息入れしてからアタックを開始する。

先程のアイスハーケンの所迄登りスタンスを大きく切ってからハーケンを根元迄打ち込む、アブミをセットしショックをかけないようじんわりアブミに乗る、次のハーケンは順調に入ってくれた。2本、3本と打つにしたがい腕は疲れ腕の疲れに比例して無感覚になってくる。ハーケンがきいていようとしまいとアブミを掛けてしまう。ハーケンを7本連打すると傾斜はゆるまり最後はカッティングで落口に抜ける。すぐ上の小滝を簡単に越えて急なルンゼをガイルいっぱい延伸ばしてテラスを作る。ジッヘルしながら阿弥陀岳を眺める。去年中田君と登った北稜、そして魅力的な北西稜はいつか登ってみたいリッジである。

谷川さんはアイスハーケンがなかなか抜けないので御枝嫌ななめである。1ピッチ登るとルンゼはS字状になりズケ所氷が出ているのでカッティングで越す。S字状を抜け出した所で昼飯を食べる。コンテナスでラッセルし続けるとルンゼは広くなり石尊峰が正面に見える。ここからは石尊稜に簡単に出られそうだ。稜線直下の壁をスタカッツピッチで登り稜線に出る。すぐ登攀用具をしまい、強い風にあたかれながら地蔵尾根を下る。森林帯に入り楽しいシリセードで行着小屋に降り中山乗越を越えて鉱泉に下る。

鉾泉には今日天狗尾根を登って鉾泉に降りて来て水島さんが僕達の帰りを待っていてくれた。

美濃戸口迄の長い道を急いで下り、茅野行きの満員バスに乗る。

コースタイム

鉾泉発(6:10)——大滝下(8:30)——大滝上(12:00)

——S字状(12:30)——校線着(14:40~14:50)——

鉾泉着(15:50)発(16:05)——美濃戸口(17:30)

穂高

四峰正面

・北条新村ルート・

屏風岩

・鵜飼翔ルート・

連続登攀

パーティー・水島他一名

昭和39年5月25日(晴)

早朝4時45分 松本着。タクシーで上高地に向う、五千尺で朝食の後7時50分発、穂沢8時55分をへて10時10分横尾に着く。先着の谷川と合流小休の後、岩小屋の前から梓川を渡る。うまい具合に流木が有り1ルンゼに入る。

岩小屋の辺りから雪渓が出て来る。我々は雪渓を谷川・Aは右の草付きを登る。途中カモシカを見る。T4から下に伸びる尾根に取り付きT4に4人集ったのは14時30分。

ここで谷川・Aは墜落ルートへ、我々は鵬翔ルートに取り
付く。先ず水島トップでフリーを登り次のピッチはYが半
分吊り上げで大バンドに着く。18時15分早速ビバークの仕
度に入る。かなり広く2人が楽に横になれる右上の崩岩に
ビバークする。谷川パーティーとの間に9mmを1本フィッ
クスし、どうせ寒くなるのだからと喰えるだけ喰う。

眠下の横尾谷が夜のとばりの中に消えてゆく。夕食の仕度
であろうか白く細い煙が立っているのが印象的であった。

5月26日 (晴のち曇のち晴)

2時頃であろうか寒くて寝て居られず起きてしまう。

メタを燃して早い食事を始める。4時30分 明るくなって
陽が当り出すと同時にツェルトをたたむ。

今日は^{かなり}よいよ青白ハングの核心部を登るのだ。谷川パー
ティーとコールを交し6時登攀開始Yトップで取り付く。だ
んだん登るにつれて首が痛くなって来る。丁度2時間でト

ップはハングを越してジッヘル点に着く。すぐ僕が登り出
す。すぐ下に大バンドがあるせいか大した高感度も無く、

大バンドの下にT4の大岩が四角く見えて居る。

小さなスタンスでトップ交替。水島トップで直上、ちょっ
と悪い左トラバースをして這松テラスに着く。テラスはも

っと広いと思ったがいやに狭く1人がやっとで有る。Yを
むかえて再び水島トップで登り出す。ハーケンボルトと良
く効いている。7mも直上した時ザイルがもつれてしまい
しばらく待つ。下を見ると赤白2本のザイルが強風にあほ
られて真横に流れている。「よし、いいぞ」の聲がかかり登
り出す。カラビナが不足しそうなのでどんどんはづししな
がら登る。ルートは左斜上になり小ハングを越える。ハン
グの根本にハーケンが有り捨て縄が掛っている。新しい捨
て縄を掛ける事が出来ずハーケンを打つ。気持ちよく歌った
ハーケんに捨て縄をかけ、ハングを越す。上のブヨブヨの
草付きでジッヘル、この辺は凄い高度感である。

いつの間にか午後になって居り、屏風の影が横尾谷に振っ
て居る。とに角今日の風の強い事、アブミが横に流れ、お
まけにアラレが降って来た。行動中は感じないがジッヘル
中は指先が痛い。Yが登って来る。ここから1ピッチで登
攀終了点で有った。おどろいた事に、朝、大バンドで飛ば
された帽子が強風に乘ってここの有った。

ヤブをガサガサと分けて、昨年来て見覚えの有る雲核ルー
トの登攀終了点に出た。16時30分 大分時間が掛ってしま
った。谷川パーティーは大分早かったらしく置き手紙が有っ

た。小休の後、屏風の頭目指して遠松コギ屏風の頭、耳を越して最低コルに19時に着く。

残雪をとがして氷を作り、食事をして目をつぶる。時々風がゴウゴウと鳴るが、囲りの木の熱か直接ツェルトをあほられる事も無かった。

5月27日 (晴)

3時に足が冷いので目を覚ます。外をのぞくと今日も好天である。5時30分、最低コルを出発、5・6のコルを目指してエッチラオッチラ北尾根を登る。3時間掛ってコルに着く。丁度涸沢から登って来た谷川達と会う。不要品をデポして身軽になり出発する。谷川達はアイゼン持参なので早く、我々が又白の雪渓に立った時すでに岩に取り付いて居た。のんびり登った急取り付き 13時。急なガリーを3ピッチで大きな遠松テラスに着く。見上げる新村ルート of the ハングは意外に小さい。水島トップで乗り越す。高度感満点のトラバースをしてピナクルに着く。まだガイルは有るのでもう1ピッチと直上してしまい、下るのにえらく骨を折ってしまう。ここまでYに来てもらい、又右にトラバース、残置ハーケン、みちびかいて直上すると登攀終了点であった。右に左にとまわり込んで稜線に出る。

1. 以下各题中，有一个选项是错误的，请将其选出。

9

谷川 毎一の倉沢登攀

- | | | |
|---------------|-----------|-------|
| 1. コップ状岩壁緑ルート | 1964.7.26 | 水島・谷川 |
| 2. コップ状岩壁緑ルート | 1965.10.3 | 永島・藤岡 |
| 3. 烏帽子岩中央稜 | 1964.6.7 | 神田・森崎 |
| 4. M状岩壁 | 1964.8.9 | 水島・森崎 |

Ⅰ コップ状岩壁緑ルート

1964.7.26 Party: 水島・谷川

早朝の土合、満天の星空で有る。車中で耳にした一の倉入山禁止の情報は、警備隊の小屋の前で早くも事実となって現れた。烏帽子で事故があったらしい。一の倉が駄目なら幽の沢へと出合に急ぐ。一の倉沢出合には30名位の登山者がワイワイやって居り、警備隊員が2名居て立札が立っている。しばらく様子を見てみるとそれでも1パーティー・2パーティーと入山して行くので我々もコソコソと一の倉に入る。衝立前沢の出合で良く会う人に会う。彼等もコップらしいので急げ急げとスラブに入る。空は素晴らしく晴れとりコップ・衝立が高く屹立している。乾いたスラブは快適でぐんぐん高度を上げる。最後でちょっと立つが大した事なく掠奪点の約100m位上に出た。前記パーティーは掠奪点

に居る。見上げるリンネに4人パーティーが先行している。
一休みの後リンネの左を登る、ちょっといやな所で広場に
7時に着いた。先行パーティーは雲表ルート　しいので最初
の目的通り縁に取り付く事にする。取り付き7時50分、カ
ンテ上のテラスまで谷川トップで登る。次のハングは水島
トップ、とに角でかいハングで直ぐに身体が浮き渡りが始
まる。左上へ左上へとハーケンからハーケンへと移動する。
大体7~8回でハングは終り、上の垂壁に出る。垂壁に出
ると身体が急に軽くなる。ここに打ってある真黒になって
いるボルトにビレーしてセカンドをジッヘルする。約1時
間半かかった。谷川は凄いスピードで登って来る。ボルト
に2人ぶら下ってトップを交替、カール下テラスまで谷川
トップで、カール下テラスに2人が集結したのは10時であ
った。タバクレた事に2人共時計無し、丁度中央夜の登攀
終了点で我々を高見の見物中のパーティーに大声で時間を聞
く始末である。

ハングを越すのに腕の力が抜けてしまい、ここから上のピ
ッチは谷川にまかせる。谷川の調子は素晴らしく続く凹角
をあっさりと越え、いやらしい草付きもぐんぐんザイルを
伸ばして行く。天気の良いせいか話に聞いたほどの事も無

くザクルンゼの入口に着く。ザクルンゼは思ったより抜く石はその名の通り浮いている。先行パーティーが出口付近に居り、落石が有るので先行パーティーが抜けるまで待つ事にする。登攀具をしまい出発する。チョックストンはザックがひっかかるので空身で登ってザックを上げる。チムニーから少し登ると懸垂岩のコルで有った。12時。小休の後烏帽子尾根をつつう云いながら登る。とに角暑い、5ルンゼの頭辺でどこかの2人が岩影でのびていた。途中尾根を下ってくるパーティーに会う烏帽子の遭難現場に下る人達で有る。一の倉岳に着いた時水は無く、一番早く水にありつける様に中芝新道を下る。芝倉沢に下って水のガブノミ、30分位の昼寝のつもりが目覚めたのは何と18時、おかげで朝帰りになってしまった。(記 水島幸男)



2. コップ状岩壁緑ルート

— 1965.10.3. Party 永島・藤岡 —

土合へ降りた時は満天の曇空だった。仲間達と別れ、一足先に目指すコップ状岩壁へと急いだ。岩壁の基部に着くともう先行パーティーが取付いていた。随分早いから聞いて見ると取付でビバークしたと云うことだった。早速装備を出して飯を喰いながら順番を待つ。先行パーティーはハングの乗越しに大分時間がかかった。9時、藤岡君とザイルを結び登攀である。永島トップで登りだす。ガッチリときいたハーケンにアブミをかけて登る。岩の感触は快適で直ぐに先行パーティーのラストに追いつき、ハングの下で少し待たされる。ハングは左斜上のためとても登りにくい。ハングの出口で捨て縄が切れと云う間にぶら下ってしまった。3m程落ちたが幸運にも岩に触れずに落ちたのでカスリ傷一つおけないで済んだ。再び登り直し、ハングを越え今度は右斜上である。少し登るとザイルが11mほどになり、不安定でいやな所でジッヘルし、藤岡君にちへら登ってもらい、再び登り、やっとカール下テラスに着く。直ぐに藤岡君を上げる。ザイルの通りがいいようにと大分カラビナをはずして登ったが青色のザイルはくるが、赤色の

ザイルはカー杯引いてもなかなかこないの、しょうがないので青のザイルだけで登る様に怒鳴る。少し登るとスムーズに通るようになりヒイヒイ云いながらテラスに登って来た。丁度12時である。少し休み藤岡トップで凹角を登る。凹角を1ピッチで越えると、後は草付である。草付はハングより悪いと聞いていたが、からからに乾いていて階段状の草付を快適にぐいぐいピッチを上げ、ザクルンせ迄来た。ザクルンゼを落石に注意しながら登るとパッと尾根に出る。14時 とうておきの桃の缶詰を用け完登を喜びあった。休憩したのち南稜を下降する。 (記 永島良雄)

3. 烏帽子岩 中央稜

1964.6.7. Party: 神田・森崎

山々は皆、知っている様に旅行にて土合駅に着く。例によって例のごとしである。中央稜基部に着いたのは6時30分頃である。基部にて南稜パーティーと別れ、7時に先行パーティーが1ピッチ終るのを待って行動を起す。

天気は快晴で暑い。神田トップにて登り始める。もちろん神田氏が最後迄トップにて登ったのである。まず1ピッチ

目はアンザイレンをし、フリーにて登る。少々左上に登り
烏帽子側にまわりこみ、大きな木をホールドにして登り、
右に屈りこんで、衝立側に出る。まわりこんで少しのぼり
チムニー状の所に出る。この中は非常に良いテラスである。
このチムニー状のところを左側のリッジを登るハーケンの
連打であり少しの緊張もすぐにほぐれる。そこを登り、左
にまわりヤブコギである。所々に大きな岩も出てくるが、
ハーケンも打ってあり快調に登り続ける。時々コンテナア
スをまじえながら登り大きな岩の上にて一服つける。
南稜のパーティーはやっと取り付いた頃であろうと考える。
再び衝立側にまわり、フェイスを登る。ホールド、スタン
スも豊富であるが初めての岩登りの為、緊張の連続である。
やや右寄に登り40mいっぱいにて大体終りであった。ここ
で右側に登り先行パーティーが直上するのを左に見ながら稜
線に出る。稜線上で神田と握手をして少し休む。衝立の終
了点はすぐ近くである。又コップもすぐ目の下に見えな
かなか気持の良い場所である。コンテナアスにてケンスイ岩
の所まで行き、懸垂岩の下にて食事をとる。もう水が無く
なっていた。南稜パーティーを待ったがなかなか見えない為
国境稜線迄登る事にする。途中、休み休み登る。

なお中央稜の終了点に着いたのは9時であった。

11時に国境稜線に出て1時迄昼寝をして中芝新道を下り、
土合駅に着く。

(記 森崎)

4. M状岩壁

1964. 8. 9. Party 水島・森崎

例によって例の如し、一の倉沢の出合を夜明けに出発した。まだ谷には雪が有り大いに助かる。7時30分に本谷バンドに到着、1時間の休みの後にアンザイレンシ、ズルンゼへと向う。1ピッチ、ルンゼに入らずに右岸をフリーにて登り、いやなトラバースを過ぎて滝に出る。先行パーティーがいたので右側を登り滝の上に出る。これよりルンゼ通しに登る。チョックストンの辺から雨が降り始めた。岩が濡れ靴がすべる。どうにかズルンゼを終り、9時40分に広河原に出た。広河原の小さな岩小屋で雨宿りをし、M状をやるか、中止にするかを相談する。雨が止んだので再び出発する。ついにM状をやる事にした。M状の下の方小屋を左にまき、GHMのペンキの所より取付く11時30分である。草付混じりの岩をフリーでやや左寄に登り、こんどは右寄に登る。前に大きな岩の有る大きなテラスである。

そこより右側へ5m程トラバースし、草付を登る。雨でゆるんだ草はすぐはがれて非常に悪い。3ピッチ目は人工登攀である。すぐにアブミが必要で、少しハング気味である。悪戦苦闘で小さなテラスを見つけジッヘルする。そこから少し右に登り1m程のバンドに出た。このバンドは上から岩が出て居て立っている事が出来ない。拴縄を利用し左側に出てやっと背をのば事が出来た。3m程登って人工は終り、草付をフリーで右よりに登ると広いテラスに出た。まだ上は一つの岩がそびえている。テラスを左に歩き、少しハング気味の所をフリーで登り右から左と登る。草付がゆるんで悪い。1ピッチでビルンゼ寄りのテラスに出た。ここで休み食事の後、又終り始める。ハングの急に頭をうつ岩を強引に乗越した所が終了点であった。コンテでハイマツの上を歩き国境後線に出る。3時であった。登攀具をしまい肩の小屋に着いた時は4時になっていた。

「アーッ!! ヨレタ」

(記 森崎)

例会報告 1965.9~1966.2

- 9.9 谷川・水島・永島・神田 於：たにかわ
中野・藤岡
- 30 谷川・中野・水島・神田 冬山合宿ハケ岳広河
永島・藤岡 原沢について
- 10.14 谷川・神田・水島・永島・ 山と溪谷に書かれた
中野 白蔭会の随筆的責任
と云う記事にACC-J
が不名誉な書かれ方
をしているので今後
の対策を話し合う。
- 10.27 谷川・神田・水島・森崎
永島・藤岡・島根・中野
1. ナーゲル祭の件
2. 会費滞納の件
3. 山溪「フィックスザイ
ルの道義的責任につ
いて」の経過報告
4. 冬山合宿ハケ岳広
河原沢の登攀ルート
- 11.7 ナーゲル祭 丹沢水無川河原
谷川・神田・水島・永島・森崎・藤岡・中野
中野

1.19 新年会 日本橋浜町・大勝軒(会費1000円)

谷川・神田・水島・森崎・島根・藤岡・中野

- 1.27 谷川・神田・永島・藤岡 1. 今後の山行の有リ
森崎・中野 方
2. 会報発行について

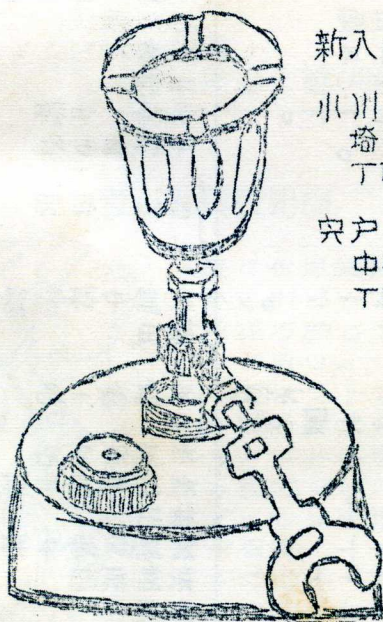
3.会則作成について
4.藤岡退会届提出

2.10 谷川・神田・水島
永島・中野・小川

1.新入会員小川隆嘉君紹介
2.ACC-Jニュース発の件

2.24 谷川・神田・永島
中野

谷川より会員心得の提案
が提出される



新入会員を紹介いたします。

小川 隆嘉
埼玉県草加市瀬崎町909-1
TEL (04892) 2341

穴戸 次郎
中央区日本橋茅町1-16
TEL (666) 5013 たにかわ方

小林 信彦
埼玉県蕨市塚越1077

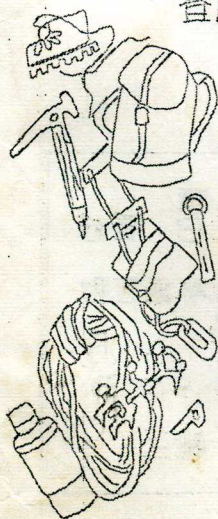
山行報告

1965.7~1965.12

月日	山	行	パーティー
7 4	丹沢水無川新茅ノ沢 〃 西丹沢懸沢 〃 谷川谷幽ノ倉(中上)		神田 弁田・中野 谷川・島根・守田 中野・神田 弁田・中野 水島・守田・中野 谷川・藤岡
18	西丹沢西沢下棚沢		
25	谷川岳一の倉沢ヨルンゼ 〃 甲斐駒赤石沢奥壁右ルンゼ		
8 1	谷川岳幽ノ沢左方ルンゼ 〃 〃 一の倉沢らルンゼ左股 8 〃 幽ノ沢中央壁左フェイス 〃 丹沢谷沢杉ノ沢 15 谷川岳幽ノ沢V字岩稜右ルート 29 ミツ峠 初 穂高滝谷ドーム正面 旬 〃 〃 C沢右股奥壁 〃 〃 ヲ一尾根		中野・永島・神田 谷川・藤岡 水島・神田 中野 森崎・中野 中野他5名 谷川・藤岡
9 5	谷川岳幽ノ沢中央壁正面ルート		水島・中野・永島 神田
13	穂高奥又白		
5 14~15	Dフェース	フェイス	水島他一名
17 16	4峰新村ルート~北壁へA		
27	北岳バットレス		水島他2名 水島・永島・中野 神田
19	蘆取山		水島・森崎・中野 永島・藤岡 水島 谷川・藤岡・神田 水島 中野他1名 中野 水島・永島・中野・神田
10 3	谷川岳幽ノ沢V字岩稜左ルート 〃 〃 一の倉沢コップ緑ルート		
10	ハケ岳地獄谷赤岳沢		
24	奥多ノ日原梵天岩 〃 丹沢葛葉川 〃 〃 水無川源次郎沢 17 ハケ岳編笠山へ西岳 31 奥秩夫笛吹川西沢		

日付	山	行	パーティー
10/31	甲斐駒		藤岡
11/3	谷川岳一の倉沢3ルンゼ(中止)		神田他/名
7	ナーゲル祭(丹沢水無川河原)		谷川・水島・永島・森崎・中野 藤岡・守田・神田
14	广取山		水島・中野・神田他/名
21	ハケ岳 玄河原沢偵察		水島・藤岡・森崎・中野
22	〃 〃 2ルゼ		森崎・中野
23	〃 〃 偵察		神田
〃	〃 赤岳北峯リッジ		森崎・中野
28	富士山		水島・永島
〃	广取山		中野
12/12	谷川岳西黒尾根		水島・中野・神田
19	ハケ岳横岳小同心北壁(中止)		水島・中野・神田

登山用具豆知識 (クレモナとフィラメント)



一般に化学繊維はドロドロの液体を小さな穴から引出して固めるので長さは無限に長く出来る訳です。その細長い繊維をフィラメントと云う。

又フィラメントを短く切って紡績したもの(つむいだもの)をクレモナと云う。

フィラメントには長いナイロンザイルやナイロン生地などが有り、又クレモナには一般のビニロン生地やアブミ用ロープ・兼縄などが有る。

又ビニロン・フィラメント生地も最近登山用品に使われ始めている。

スキーと山の店 たにかわ 提供

コノペーシハアナタノペーシデス.....
ナニヲカイデモタニンニハミエナイマホウノペーシデス
但シ火星山岳ヨリ寄贈サレタミエナイペン使用ノ夢

会 報
昭和41年6月1日 発行
発行所
東京都中央区日本橋茅町
たにかわ内
ACC-J
TEL (666) 5013
編集者 神田 和臣